国語辞書を使用した日本語指導が必要な高校生向け授業案

期日：2022年5月

授業者：斎藤里美

１　単元（題材）名

「国語辞書の引き方を学んで、単元の理解を深めよう」

２　単元（題材）の目標

(1) 国語辞書の語の並び順などを知り、使い方を学び、単元教材のキーワードを辞書で調べ、意味を確認する。言葉の意味や含まれる語義に。自分の母語と違いがあるか確認する。

(2) 学習のなかで調べたことやわかったことをワークシートに書き発表する。

(3) 積極的にペアワークに参加し、貢献する。ワークシートをよりよく仕上げるために積極的に辞書を活用する。

３　単元（題材）の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・国語辞書の語の並び順などを知り、使い方を理解できた。  ・単元教材などのキーワードを辞書で調べ、意味を確認できた。  ・言葉の意味や含まれる語義に。自分の母語と違いがあるか確認できた。 | ・学習のなかで調べたことやわかったことをワークシートに書き発表できた。 | ・積極的にペアワークに参加し、貢献できた。  ・ワークシートをよりよく仕上げるために積極的に辞書を活用できた。 |

４　指導観

(1)単元（題材）観

　国語の辞書の引き方を学び、自分自身でわからない言葉を調べられる基礎を身に付ける。

　日本語の語彙について鮮明なイメージを持つことで読解力が向上する。

(2)教材観

　辞書の引き方を身に付けることで、今度の読書活動や情報収集に際して必要な技術が身につく。辞書を引くことだけでなく、索引を利用することにも役立つ。

　『ねっこ動詞形容詞300』を用いることで、日本語の語句のイメージをより鮮明に持つことができる。

(3)生徒観

　日本語指導が必要な外国出身高校1年生生徒２名。出身国は漢字圏と非漢字圏各1名。日本語レベルは入学時中級程度。入学後、日本語の基礎固めを行った後、国語総合の教材学習に移行する段階。

５　年間指導計画における位置付け

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学年 | 第１学年 | 第２学年 | 第３学年 |
| 単元（題材）名 | 日本文化と西洋文化の比較がテーマの評論 | 日本文化と西洋文化の比較がテーマの評論 | ― |
| 主な内容 | 日本文化と西洋文化を比較する、など。  入学後、N３レベルまでの日本語の基礎固めを行った後の最初か、2番目の現代文となる。 | 西洋人にとっての「自然」と日本人とっての「自然」を考える、など。 | ー |

６　単元（題材）の指導計画と評価計画（全○時間扱い）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ★目標　○学習内容　・学習活動 | ■評価規準（評価方法） |
| 第１時 | ★一般的な国語辞書の構成、辞書のことばの並び方を知る。実際に自分で言葉を調べ、今度の学習に活かすきっかけにする。 | |
| ○国語辞書の構成、言葉の並び方を知る。  ・辞書の使い方の説明を聞く。（PPT、プロジェクター活用）  〇実際に自分で言葉を調べてみる  ・各自ワークシートに教員が記入しておいたキーワードについて辞書を引き、ワークシートに意味、例文を書きこむ。  ・調べた意味を発表する。 | ■国語辞書の語の並び順などを知り、使い方を理解できた。（観察）  ■国語辞書の語の並び順などを知り、使い方を理解できた。（ワークシート）  ■学習のなかで調べたことやわかったことをワークシートに書き発表できた。（発表）積極的にペアワークに参加し、貢献できた。（観察） |
| 第２時 | ★国語辞書引きを実践して使い方に慣れる。「ねっこ」を使用し、形容詞のイメージを鮮明にする。翻訳アプリでの母語の意味との比較を行う。 | |
| ○自分が調べたい言葉など、国語辞書引きの実践をする。  ・ワークシートの続きと単元教材の中から自分が調べたい言葉と調べてみる。  ○「ねっこ」を使用し、形容詞のイメージを鮮明にする。  ・単元教材にでてくる形容詞をいくつか「ねっこ」で調べ、言葉のイメージを広げる。  〇翻訳アプリでの母語の意味との比較を行う。  ・普段自分が使用している翻訳アプリで母語の意味を調べ、日本語辞書、ねっこと比較する。 | ■単元教材などのキーワードを辞書で調べ、意味を確認できた。ワークシートをよりよく仕上げるために積極的に辞書を活用できた。（ワークシート・発表）  ■単元教材などのキーワードを辞書で調べ、意味を確認できた。ワークシートをよりよく仕上げるために積極的に辞書を活用できた。（ワークシート）  ■言葉の意味や含まれる語義に。自分の母語と違いがあるか確認できた。積極的にペアワークに参加し、貢献できた。（ワークシート・観察） |

７　指導に当たって

(1) 国語辞書の構成、言葉の並び方では、PPTとプロジェクターを用いてテンポよく行う。クイズ形式で生徒に参加させながら、知識を身に付けさせる。

(2)ワークシート記入後や発表前には生徒同士でチェックしあう時間をとる。自主的に学習活動に参加するきっかけの一つとし、友だちの学習から学びをえるため、ピアサポートの機会を作る。

８　授業内容（全２時間中の１時間目）

８-1　本時（全２時間中の１時間目）

(1)本時の目標

・一般的な国語辞書の構成、辞書のことばの並び方を知る。

・実際に自分で言葉を調べ、今度の学習に活かすきっかけにする。

(2)準備物

小学国語辞典（生徒人数分）　ワークシート（生徒人数分）　プロジェクター　タブレット

(3)本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容　・学習活動 | ・指導上の留意点 | ■評価規準（評価方法） |
| 導入  5分 | ○あいさつ　導入  ・本時の学習内容を伝える  ・辞書の配布 | ・普段、言葉の意味が分からないとき、どうするか尋ねる。  ・「紙」の辞書を使ったことがあるか聞く。 |  |
| 説明  20分 | ○辞書の構成、言葉の並び順説明  ・プロジェクター、PPTを使って辞書の構成、辞書のことばの並び方を説明  ・見出し語は50音（あいうえお）順にならんでいることを示す・  ・並び順についてクイズ形式で定着を確認する。  　例①「あ　う　どちらの順番が早いですか。」  「そ　ほ　どちらが早いですか。」「あか　あお　どちらが早いですか」  ・濁音、半濁音の並び順、拗音の並び順、カタカナの伸ばし音は伸ばした時のひらがな音に変えて調べる（カード➡かあど　など）などのルールもクイズ形式で聞く。  ・「書かない　書こう」などは辞書形「書く」で引くことを確認。イ形容詞、ナ形容詞についても同様に確認する。 | ・写真にしるしをつけたPPT で、「見出し語」「漢字表記」「意味」「例文」「動詞・名詞・人名・地名」など書いてある部分を示す。  ・見出し語の並び順はどうなっているか考えさせてから答えを示す。  ・ルールの提示についてはテンポよく行い、後で実際に自分で調べてみて定着させる。 | ■国語辞書の語の並び順などを知り、使い方を理解できた。（観察） |
| 活動  15分 | 〇辞書引き活動  ・辞書を引いてみる。  ・ワークシートで提示された語を調べてみる。終わったら、単元教材の語句を自分で調べたい言葉を調べてみる。 | ・語の並び順のルールで困っている生徒がいないか確認する。  ・最後の数分はピア活動を行い、友だちとワークシートを見せ合う。 | ■国語辞書の語の並び順などを知り、使い方を理解できた。（ワークシート）  ■積極的にペアワークに参加し、貢献できた。（観察） |
| まとめ10分 | ○発表  ・ワークシートに書いたことの発表  ・今日の内容で気づいたこと、わからなかったことなど確認。  ・ワークシートの回収  ・次回の予告（言葉調べ続き+日本語学習者向け辞書「ねっこ」使用予定+普段使っている辞書アプリなどを使って母語での意味調べ） | ・翻訳アプリ使用の際、鈴木（2014）によれば拗音をローマ字入力ではなく、ひらがなの文字単位で入力している学習者が見られるとのこと。(例：ちょ➡cho/cyoではなくti+xyo)  ローマ字表を用意しておく。 | ■学習のなかで調べたことやわかったことをワークシートに書き発表できた。（発表）  ■国語辞書の語の並び順などを知り、使い方を理解できた。（ワークシート） |

８-2　本時（全２時間中の2時間目）

(1)本時の目標

・国語辞書引きを実践して使い方に慣れる。

・「ねっこ」を使用し、形容詞のイメージを鮮明にする。

・翻訳アプリでの母語の意味との比較を行い、意味が重なる部分、異なる部分があることに気づく。

(2)準備物

小学国語辞典（生徒人数分）　ワークシート（前回記入済みのものと今回使用するもの）　ねっこ動詞形容詞300（生徒人数分）

(3)本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容　・学習活動 | ・指導上の留意点 | ■評価規準（評価方法） |
| 導入  5分 | ○あいさつ　導入  ・本時の学習内容を伝える  ・小学国語辞書配布  ・前回のワークシート返却 | ・辞書引きのルールなど覚えているか確認。 |  |
| 活動  15分 | ●辞書引き活動①小学校国語辞書  ・単元に活かせるよう、言葉を調べる。  ・最後の数分は生徒同士でワークシートを見せ合い、互いにどんな言葉を調べたか話し合う。 | ・辞書引きの方法を思い出し、定着させる。  ・ルールで悩んでいる生徒がいないか机間巡視する。  ・あらかじめ活動時間を10分程度を知らせておく。 | ■単元教材などのキーワードを辞書で調べ、意味を確認できた。ワークシートをよりよく仕上げるために積極的に辞書を活用できた。積極的にペアワークに参加し、貢献できた。（ワークシート・観察） |
| 活動15分 | 〇辞書引き活動②「ねっこ動詞形容詞300」  ・「ねっこ」・本日用ワークシート(ねっこ、翻訳アプリでの意味調べ用)配布  ・「ねっこ」についての説明  ・ワークシートに従って、「ねっこ」で使われている形容詞「優しい」「静か」「自然」の語義を調べ、語義ごとに好きな例文を1つ記入する。  ・調べた意味の発表、単元教材で使われてる語義にチェックをさせる。 | ・形容詞のイメージを広げる。  ・【単元で使われる語の例】一般的な国語辞書では例えば、〈「優しい」は①穏やかでおとなしい。例）人柄が優しい。②上品でうつくしい。例）優しい姿。③思いやりがある。例）優しいことばをかける。〉のような記載で、「おとなしい」はN2、「人柄」はN1の語彙であり、生徒にとって負担があると思われる。  ・「ねっこ」の場合は〈優しい①「優しい」は、他の人に親切だという意味です。例）失敗して落ち込んでいたとき、「失敗は誰にでもあるから気にするな」と上司が優しい言葉をかけてくれた。」〉のような記述がされており、「落ち込む」「上司」はともにN1の語彙だが、例文からの類推がしやすくなっている。 | ■単元教材などのキーワードを辞書で調べ、意味を確認できた。ワークシートをよりよく仕上げるために積極的に辞書を活用できた。（ワークシート・観察）  ■学習のなかで調べたことやわかったことをワークシートに書き発表できた。 |
| 活動15分 | ○翻訳アプリで母語での意味を確認  ・ワークシートに母語での意味を追記。  ・ピア活動で互いに意味に違いがあったか話し合う。  ・発表 | ・ローマ字表を用意。ローマ字での入力の際、注意させる。  ・生徒の普段の言葉調べの活動を確認する。  ・言葉の意味に、自分の母語を重なる部分があるか、また違いがあるか確認できたか、発表させる。 | ■単元教材などのキーワードを辞書で調べ、意味を確認できた。ワークシートをよりよく仕上げるために積極的に辞書を活用できた。（ワークシート）  ■言葉の意味や含まれる語義に。自分の母語と違いがあるか確認できた。積極的にペアワークに参加し、貢献できた。（ワークシート・観察）  ■学習のなかで調べたことやわかったことをワークシートに書き発表できた。（発表） |
| まとめ  5分 | 〇本時の振り返り  ・これから学習する単元の言葉が調べられたか。  ・単元で、内容のイメージを広げるポイントとなる形容詞の意味がつかめたか。  ・本時のワークシートのみ回収。 | ・初回のワークシートは自分で家で追記したり、授業の際に持ってきて活用したりする。 |  |

参考

・新学習指導要領に対応した学習評価(高等学校編) https://www.nits.go.jp/materials/youryou/files/034\_001.pdf（アクセス日2022/5/1）

・鈴木智美(2014)「中上級日本語学習者の作文過程における辞書使用ー辞書使用の詳細を可視化するデータベース作成に向けて」東京外国語大学留学生日本語教育センター論集40：15～33

・ネコ好きな学校の先生の日常「3年国語「国語辞典の使い方」はテンポよくスライドを見せて感覚をつかむ」https://kuronekoneko.com/kokugozitentukaikata1/（アクセス日2022/3/16）

・新学習指導要領対応指導案の書き方やポイント、作成手順まとめhttps://meryteacher.com/shidouankakikata/　（アクセス日2022/5/14）